選手村地区の水素供給

水素ステーション、水素パイプライン、純水素型燃料電池を整備し、FCバス、FCVなどの車両への水素供給や、パイプラインを通じた街区への水素供給を実現します。平成30年2月に、東京ガス株式会社を代表企業とする6社（東京ガス株式会社、晴海エコエネルギー株式会社、ＥＮＥＯＳ株式会社、株式会社東芝、東芝エネルギーシステムズ株式会社、パナソニック株式会社）との基本協定を締結し、事業を開始しています。

水素パイプライン敷設イメージ

車両に供給

水素ステーションは、FCバス、FCVのほか、BRTなどの連節バスも敷地内で転回できる余裕のある設計となっており、あらゆる燃料電池車に水素を供給できます。

[FCバス]

※イメージ

[FCV]

※イメージ

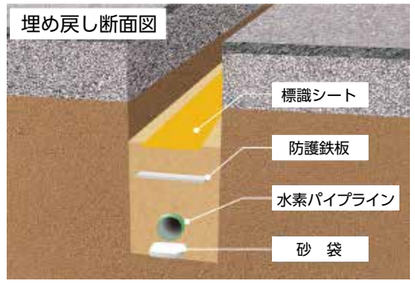
※FCバス、FCVは、ゼロエミッション・ビークルのひとつで、走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない車です。

街区に供給

●水素パイプライン

実用段階では日本初となる街区への水素供給を実現するパイプラインは、水素社会のモデルを目指したまちづくりを支えます。

[パイプライン]



※イメージ

●純水素型燃料電池

純水素型燃料電池を住宅、商業施設の共用部に導入し、水素パイプラインによって供給される水素によって発電を行います。

※イメージ

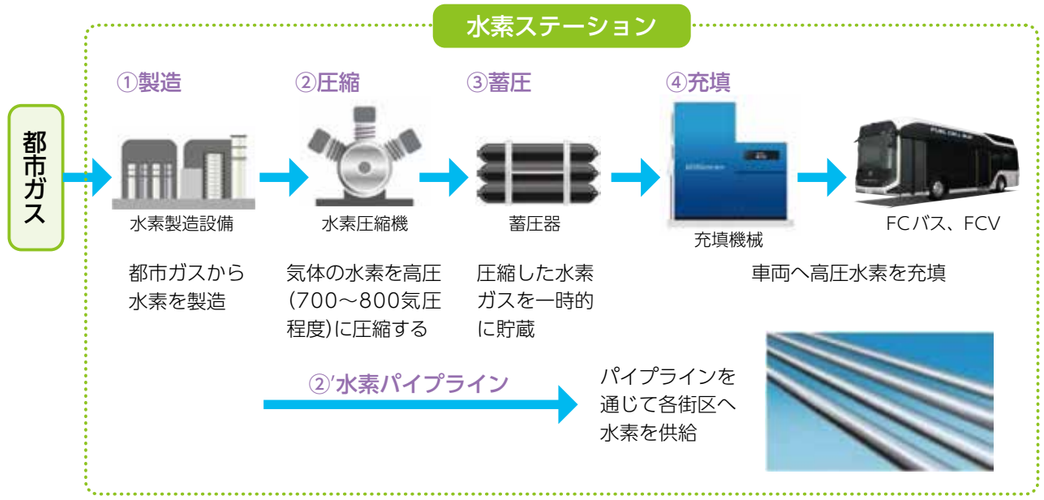
水素ステーション

水素ステーションのタイプ

水素ステーションは、水素の供給方式によって以下の3方式に分けられます。なお、選手村地区においては、オンサイト方式を採用しています。

オンサイト方式　選手村地区で採用

水素ステーション内で都市ガスやLPG等から水素を製造し、圧縮、蓄圧、充填する方式。



オフサイト方式

水素ステーション外で製造された水素を搬送し、水素ステーション内で圧縮、蓄圧、充填する方式。

水素トレーラー

移動式

水素供給設備を搭載した車両を既定の場所へ移動し、充填する方式。

移動式水素ステーション（イメージ）

選手村地区　水素ステーションの特徴

●水素の製造・供給

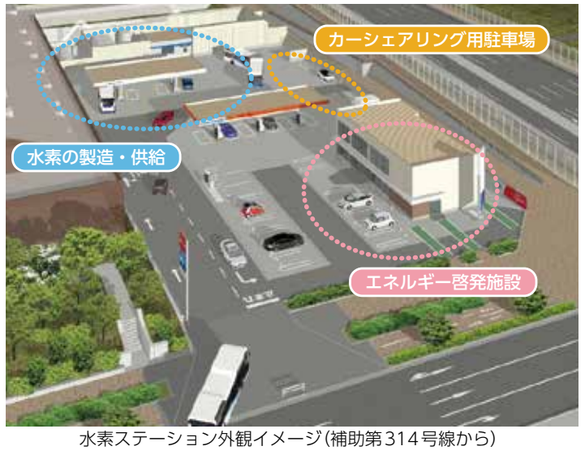
車両（FCバス・FCV）への燃料供給に加え、各街区への共用部に水素供給を行います。

●カーシェアリング用駐車場

カーシェアリングサービスとしてFCVを配置します。マイカーを所有しない地域の方々にもFCVを利用する機会を提供することで、水素エネルギーの利用を促進します。

●エネルギー啓発施設

生活利便施設の２階にエネルギー啓発施設を設置します。利用者が気軽に啓発施設へ立ち寄り、エネルギーの情報に触れる機会を創出します。



水素ステーション外観イメージ（補助第314号線から）